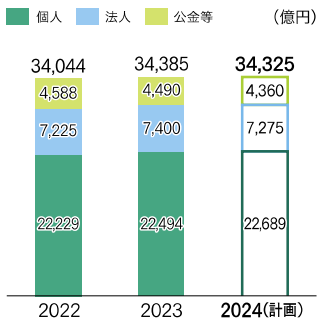


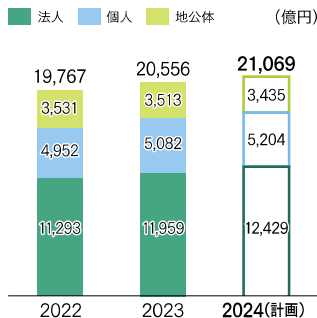
財務・非財務トピックス

預金・譲渡性預金残高〔平残〕



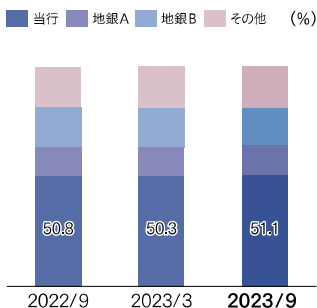
2023年度は個人・法人ともに増加。
2024年度も総体で横ばいを見込んでいます。

貸出金残高〔平残〕



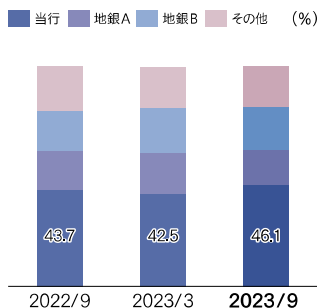
2023年度は法人・個人ともに増加。
2024年度も中小企業向けや住宅ローンを軸に増加させていく計画です。

預金等シェア〔県内〕



預金等の県内シェアは、51.1%と首位を維持しています。

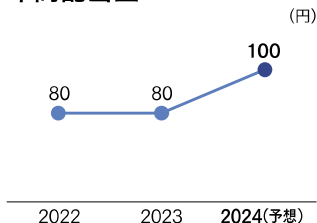
貸出金シェア〔県内〕



貸出金の県内シェアは、46.1%と首位を維持しています。

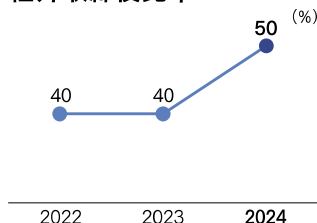
※県内シェアは、国内銀行（ゆうちょ銀行を除く）および信用金庫による割合です。

年間配当金



配当性向30%程度の還元方針のもと、2024年度は1株あたりの配当金を100円と予想しています。

社外取締役比率



経営の監督機能を高めるため、取締役のうち、独立性のある社外取締役の割合を50%に引き上げました。

株式情報

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日

定時株主総会 毎年6月中に開催します

配当金の基準日 期末配当：3月31日
中間配当：9月30日

1単元の株式数 100株

単元未満株式の買取り
【取扱場所】
(特別口座)
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部
【株主名簿管理人】
(特別口座)
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
電話：0120-232-711(フリーダイヤル)
受付時間：土・日・祝日を除く
平日9時～17時

公告掲載方法 電子公告により行います。
(当行ホームページ <https://www.iwatebank.co.jp/>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、盛岡市において発行する岩手日報及び東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。

岩手銀行

ヘラルポニー社の代表を務める松田崇弥さん、文登さんの実兄で知的障害を持つ翔太さんが幼少期に記した「岩手銀行」の文字です。

2024年6月発行
株式会社 岩手銀行 総合企画部 広報室
〒020-8688 盛岡市中央通一丁目2番3号
TEL 019-623-1111(代表)



ホームページ



岩手銀行

いわぎんレポート2024

2024年3月期
営業のご報告

ごあいさつ

代表取締役頭取

岩山 徹



平素より、岩手銀行をご利用、お引き立ていただき、誠にありがとうございます。

当行グループの主要な営業基盤である岩手県では、社会減による人口流出や全国比相対的に高い後継者不在率などの従来からの課題に加え、継続的な物価上昇や働き手不足など、喫緊の課題に直面しています。一方で、全体として企業による価格転嫁や賃上げの動きもみられているほか、県央部ではライフサイエンスなどのベンチャー企業、県南部ではモノづくり産業、県北部では地域エネルギー、沿岸部ではコンテナ物流といった成長基盤が徐々に拡大するなど、県内経済は、緩やかではありますが成長軌道にあります。

こうしたなか、10年後の長期ビジョン達成に向けた第一歩として第21次中期経営計画をスタートさせ、初年度となる2023年度は主要計数目標のすべてで計画を上回る結果となりました。前中計で取り組んだ営業体制の再構築やコスト構造改革などの収益体質強化と、コンサル・地域商社機能の拡充などの事業領域拡大の成果が表れてきています。また、2023年度は、株価や資本コストを意識した経営の実践への足掛かりとして、PBRの現状や改善に向けた取組みを整理・公表しました。さらに、株主や機関投資家、個人投資家との対話強化にも取り組み、新たに個人投資家向けWEB説明会や決算発表の英訳配信も開始しています。

足元では日銀のマイナス金利政策が終了し、「金利ある世界」の到来により、地域金融機関の本来業務である金融仲介機能が重みを増してきています。当行では今年4月、17年ぶりに預金金利の引上げを行っており、今後も市場環境の変化に適切に対応していくとともに、金利のない状況下で磨いてきた非金融ビジネスと連動させ、お取引先の課題解決を通じた付加価値の提供に努めていきます。

当行グループは失敗を恐れずに常に挑戦する気概を持ち、「価値共創カンパニー」として地域の未来を地域の皆さまとともに創ってまいりますので、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

| 2023年4月～2026年3月 |

第21次中期経営計画 ～地域価値共創プラン～

中期経営計画の推進状況

単 体	2023年度		2024年度		2025年度 目標
	計画値	実績	計画値	目標	
連結当期純利益	40億円	42億円	43億円	55億円	70億円
連結ROE	2.2%	2.3%	2.3%	3.0%	4.0%以上
連結自己資本比率	11.1%	11.2%	10%後半	10%台後半	10%程度
OHR(単体)	79.2%	73.0%	78.5%	72%以下	60%台
顧客向けサービス業務利益(単体)	▲9億円	▲0.7億円	▲9億円	黒字化	10億円以上

主要計数目標に対する2023年度実績はおおむね順調に推移しています。「顧客向けサービス業務利益」は単体ベース0.7億円の赤字となっていますが、コンサルティング業務や地域商社事業などを考慮した連結ベースでは、足元で黒字化を達成しています。2023年度の実績と今後の業績の見通しを踏まえ、2024年度は、当初の計画値を上回る新たな目標を設定しました。

業績予想

(億円)

	2023年度	2024年度	前期比
経 常 収 益	386	404	+18
貸出金等資金利益	279	289	+10
経 常 利 益	66	78	+12
当 期 純 利 益	40	55	+15
親会社株主に帰属する当期純利益	42	55	+13

金利の引上げにより預金利息は増加しますが、貸出金利息や有価証券有価証券利息等の増加がそれを上回り、資金利益が改善することから、2024年度は前期比増収増益を予想しています。

※上記の業績予想は、年度内に日本銀行による政策金利の引上げが実施される前提で作成しております

| ～2033年3月 | 創立100周年

お客さまの課題解決と
地域社会の持続的成長を牽引する
価値共創カンパニー

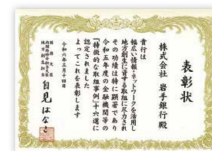
TOPICS

1 グリーン営業の取組み ～地域の脱炭素化を牽引～

当行では、自治体の温室効果ガス（GHG）排出量の「見える化」から、課題の認識や解決に向けたサービスの導入・運用に至るまでをサポートし、地域の脱炭素化を進めています。

また、域内企業による地産地消型のカーボンオフセット実現に向け、地方公共団体のJクレジット・Jブルークレジット®の販売仲介業務の受託やカーボンクレジットの創出・販売支援を行うなど、脱炭素に資する総合的な取組みを展開しています。

これらの活動が評価され、内閣官房「令和5年度『地方創生に資する金融機関等の特徴的な取組事例』」に選定されました。



2 お客さまのプロモーション支援 ～「ATM広告」の取扱いを開始～

「いわぎん広告・マーケティングサービス」の新しいメニューとして、2024年5月よりATMを活用した広告サービスの取扱いを開始しました。ターゲティング広告（DM等）、デジタルサイネージ広告に続き、3つ目のサービスとなります。

このサービスでは、年代を問わず多くのお客さまにご利用いただいている当行のATMを通じて、事業者さまの広告を配信することが可能です。認知拡大を目指す事業者さまへ、当行の媒体を活用した広告支援を提供しています。



3 外部連携 ～株式会社ヘラルボニーとの共創～

ヘラルボニー社の「岩手異彩化プロジェクト」に当行がメインパートナーとして参画することとなりました。「異彩の力で産業を創り、社会を前進させる。」をプロジェクトのミッションとし、アートを使ったまちづくりなどで、岩手に暮らす一人ひとりがありのままに活躍できる包括的な社会の実現を目指すとともに、様々なイベントを通じて、全国/世界にも「岩手」を発信していきます。

株式会社ヘラルボニー

知的障害のある作家とアートライセンス契約を結び、様々な形で異彩を社会に送り届け、福祉領域の拡張を見据えた多様な事業を展開

